



新しい小田原へ!

NO.1

H.22.9

「いのちを大切にする小田原」の実現に向けて、着実に進行中!

大活躍! 救命救急センター

—医師や看護師さんたちのがんばりで—

長年、市民が希望していた救命救急センターが平成21年4月から開設されました。

今までは東海大学に搬送されていた人も短時間で市立病院に搬送される、あるいは東海大学に転送される場合でも市立病院でいったん応急処置をしてもらってから転送されるなど、これまで以上に救命の効果を上げています。市立病院への搬送数は、開設前に比べ約18%伸びました。

市民にとって、1年365日24時間体制でいつでも対応してくれる病院があるということは、



本当に安心です!

ただ、この体制を維持するための医師や看護師さんたちのがんばりは相当なもので、市民として心から感謝します。市長は、より多くの医師や看護師さんたちに市立病院に来ていただけるように働きかけているようですが、ぜひ頑張っていたいただきたいと思います。



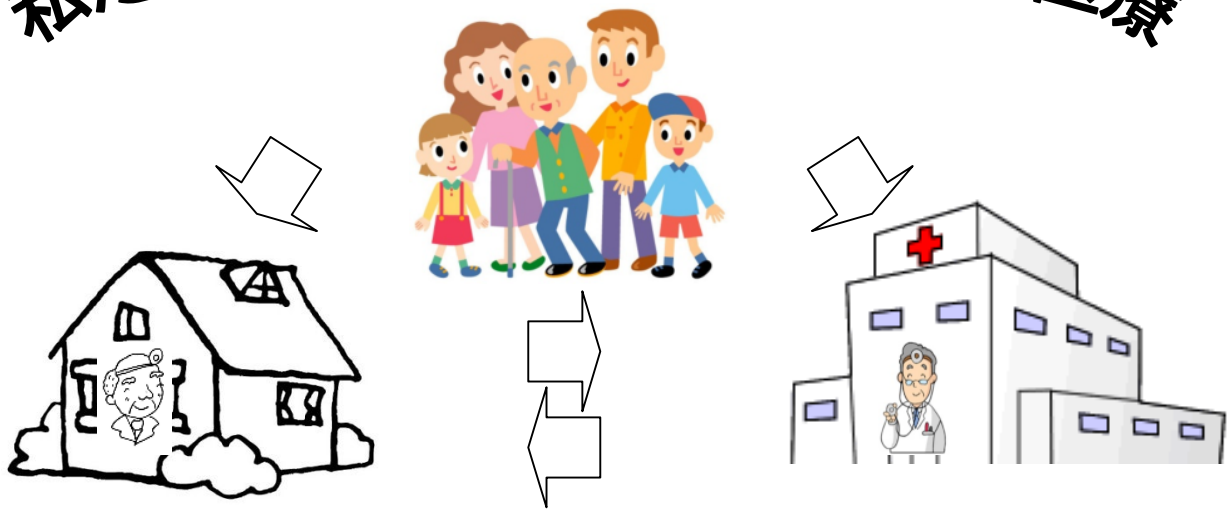
「すぐに手術を受けたので、助かりました!」

市内にお住まいのT・Iさんは、健康に自信のある方で、酒匂川によく釣りに行かれるそうです。お会いした時、とても70歳を過ぎていらっしゃるとは思えないほど若々しい方でした。

8月の初めの土曜日、朝食をとっていると急に胸が痛むので、ソファに横になったのですが、痛みが普通ではなかったため救急車を呼びました。

すぐに市立病院の救命救急センターに運ばれ、手術。「手当が早かったため、助かったのだと思う。手術中、看護師さんから声かけをしていただくなど、主治医の先生や看護師さんたちにはとても感謝しています。」と話されています。

私たちが守って行こう 小田原の医療



2人主治医制

かかりつけ医 症状が安定している時に診てもらうお医者さま
病院の医師 半年に1度もしくは症状が悪化した時に診てもらう

全国的に医師不足が叫ばれています。医師に過度の負担をかけず、地域医療を支えてもらうには、私たちにもできることがあります。

それは、ちょっと体の様子がおかしいなと思った時、まずは近くの医院に行って診てもらいます。(かかりつけ医) このお医者様には、いつも診てもらっているのです、私たちの体の変化が良くわかります。症状が悪化した時は、すぐにより高度な医療ができる病院に紹介してもらいます。症状が安定したら、またいつもかかっている医院で診てもらいます。

地域医療の連携

市立病院では、平成21年8月から地域の医師や訪問看護ステーション、ケアマネージャーなど様々な職種のメンバーによる地域連携会議が開催されています。

市立病院と地域の病院・診療所・福祉施設など色々な医療機関が一つのチームとなり、市民の命を守って行こうと手を取り合い、協力していくことで地域医療全体が効率的に機能していきます。

おだわらを拓く力 川東南支部 連絡先 電話 0465-21-5260

(当会は加藤けんいちを後援しています)

〒250-0011 小田原市栄町 2-13-1

FAX 0465-21-5261

<http://www.katoken.info/index.html>

E-mail powers@mbn.nifty.com